SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業
― 2019 年 10 月～2020 年 2 月進捗状況 ―

2030 年のゴールを目指す「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」は、私たちも目にする機会が増えてきたようにも思います。

日々の現実問題として、気候変動、平和など身近なところから世界状況など不安な気持ちになることも多く、「持続可能な社会の実現」に自分のこととして真摯に取り組まなければと思います。

当会は、持続可能な視点を持つ人が増えることを願い、「SDGｓ達成のためのESD担い手育成事業」を2018年度から展開しています。今回は、2019 年 10 月～2020 年 2 月までの活動の様子を以下に報告いたします。

第２回 SDGs 公開セミナー報告

■日時　2019年11月16日（土）13：30～16：00
■会場　千葉市生涯学習センター　小ホール　■参加者：43名
■内容
- 基調講演
  - 我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダについて
    神田外語大学言語メディア教育センター長・准教授 石井 雅章氏
- SDGs を自分ごとに取り組む事例紹介
  - 鎌倉市　SDGｓ未来都市計画について　鎌倉市役所　比留間 彰氏
  - 間伐材の有効活用など企業の取り組みと地域の関り（株)ソーケン製作所　齋藤 弘喜氏
  - 「市民が愛着と誇りを持って住み続けられるいすみ市に！」
    移住者と地元民との活動　NPO 法人いすみライフスタイル研究所　江崎 亮氏
  - SDGｓ達成のための ESD 人材育成事業　NPO 環パちば　桑波田 和子

基調講演では、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（行動目標）」のエッセンスである「前文」について、丁寧に解説していただきました。

Transforming（取り繕うのではなく本気になって変える）／Development（経済的だけでなく精神的、社会的、文化的に豊かになる）／Sustainable（他の人たちのニーズを損なわない形で、私たちのニーズを満たし続ける）というような言葉の説明により、実感を持って理解することができました。

事例紹介の比留間氏からは、鎌倉市役所内での取り組みに奮闘されていること、また市民のサポートとともに、行政と市民の取組など参考になりました。斎藤氏の地域・障碍者・福祉・里山保全などへ企業として取り組む姿勢は印象的でした。江崎氏からは、持続可能な街づくりへ向けて、いすみ市の良さなどの発信や、体験事業、新住民・旧住民とのつなぎ役としての活躍を知ることができました。桑波田からは、現在展開している人材育成業を紹介しました。

参加者は、企業・行政・NPO・若者など多様な方でした。

第３回 ESD 地域リーダー育成報告

■日時　2019 年 11 月 11 日　　2019 年 11 月 24 日
■会場　成田商工会議所（成田）　　千葉市文化センター（船橋）
■内容

第２回でファシリテーターやサポーター及び受講生からいただいたアドバイスを受けて、各自でブラッシュアップしたプログラムを再提出していただき、第３回でさらにブラッシュアップです。

11 月 11 日の成田会場では、船橋（千葉）会場の方も含めて８名の参加がありました。

前半のグループワークでは、２グループに分かれて説明と意見交換を行いました。後半の全体発表では、１人７分間の発表（プログラムの説明）の後、7 分間でサポーターや受講生のアドバイスをいただき、プログラムの目的・目標がより鮮明になり、実際の活動の流れがわかりやすく整理できました。

この日の参加者のプログラム名は、一反歩から始まる環（わ）／環境活動家グレタ・トゥーンベリさんとめぐる“#未来のための金曜日”の旅／アップサイクルで知るモノの価値／可燃ゴミを減らそう！生ごみ堆肥化プロジェクト／こどもたちの力を借りて地球を救おう！こどもは世界を癒す創造力の種／環境活動と市民活動のコラボ！生ごみ堆肥化と地域の関わりを考える／牛乳パック紙すきに挑戦！／防災からたどる SDGs の道、と多彩で、どれも興味深いものです。

船橋（千葉）会場の 11 月 24 日にも同様の活動を行いました。

ESD 地域リーダープログラム発表会

■日時　2020 年２月３日　９：30 ～ 12：30
■会場　千葉市文化センター会議室
■内容

船橋（千葉）・成田の２会場で３回にわたり実施されたプログラムづくりを経て、ESD の視点を入れた環境学習プログラムの発表会を開催しました。この日の午後に開催される「ESD 地域リーダーが活躍できるプラットホーム」を考えるメンバーにも聞いていただき、一人 10 分間の発表でした。13 の発表プログラムテーマは、以下のような多彩なプログラムとなりました。

自然再生協議会委員が土木技術者に伝える自然再生地の使い方/ 浦安三番瀬をもっと知りたい/ 可燃ごみを減らそう！生ごみたい肥化プロジェクト/ こどもたちの力を借りて地球を救おう！こどもは世界を癒す、想像力の種/ 昔カレンダー「二十四節気」から学ぶ地球温暖化/ 紙博士になろう！～調べて作って考える「私たちのくらしと紙」～/ 環境活動と市民活動のコラボ！生ごみの堆肥化（ごみ減量）と地球の関わりを考える/ アップサイクルで知るモノの価値/ 森林と私たち/ 環境活動家グレタ・トゥーンベリさんとめぐる“#未来のための金曜日”の旅/ 防災からたどる SDGs の道/ １反歩からはじまる環（わ）/ 視野を広げる親子の学び（身近な ESD、SDGs）。

その後、参加者全員による質疑やアドバイスなどもいただき、参加者にとって次に繋がる貴重な時間になったと思います。

また、これらのプログラムを「ESD プログラムガイドブック Ⅱ」として印刷製本し、県内環境行政担当に配布、NPO 環パちばホームページにも公開する、という主催者の提案を示して、プログラム作成者から承認が得られました。

「ガイドブック Ⅱ」は、ニュースレター８号とともに発行予定ですので、ぜひ次年度 ESD 地域リーダー育成にもご活用ください。

2018 年度 ESD 地域リーダー（１期生）ブラッシュアップ＆勉強会報告

■開催日時　2020 年１月 20 日（月）14：00～17：00
■開催会場　千葉市生涯学習センター（３階）研修室１
■内　容

昨年度作成した１期生プログラム 15 の中の５プログラムについて実施報告がありました。

いざ実施してみると、「これも、あれも教えなければ」「詰め込みすぎたかな？」「フィールドでの活動は時間が押してくるので、今後の検討課題」など反省点もありました。一方、学ぶ人が主体となるように進めていくと、参加者のやる気の姿に、逆に、教える側が学べた、「教える」から「引き出す」へと体感したとの報告もありました。実施する機会が無かった方からは、今後実施できる機会を、現在の事業の中で作るなどの提案もありました。２期生（2019 年度）の方からは、報告を聞いて、実施するイメージがつかめたなどご意見がありました。

後半は、「勉強会」として、古嶋美文氏（佐倉市内外で小学校長等歴任）より、「新学習指導要領と印旛沼学習」について講演していただきました。令和２年度から実施される「新学習指導要領」のポイント１は、児童生徒は、何ができるようになるのか、何を学ぶのか「学ぶ対象」、どのように学ぶのか（学ぶ方法）。ポイント２は、これまでの「教師が教える」→これからは「児童生徒が学ぶ」スタイルにしていくことが重要と話されました。「印旛沼学習」と称して、印旛沼健全化会議の学びワーキングで現在実施されている、指導案作りと実践についての状況もお聞きしました。

（古嶋美文氏）

第３回プラットホームづくり報告

■開催　日時:2020年2月3日（月）13：30～16：30
■会場　千葉市文化センター会議室5
■内容

今年度最後の会議となる３回目は、まず同日午前中に開催された「ESD 地域リーダープログラ発表会の報告と参加されたプラットホームの方の感想などいただき、参加できなかった方とも情報を共有しました。

その後は、第２回目目（10 月７日）ワークショップのふりかえりを行いました。ふりかえりを基に、環境パートナーシップちばから、プラットホームの提案をたたき台として、ワークショップに入りました。

グループは、2 回目と同じようにキーワードを「目的」「機能」「条件」「運営」として、4 グループに分かれ、総勢 28 名で取り組みました。「目的」のグループでは、「使命：ミッション」とした方が考えやすいとなりました。ワークショップ結果をまとめると、以下のようになりました。

【使命（ミッション）】：持続可能な社会の実現を目指して、課題を持った人・組織が集まり、それぞれの課題解決に向けて、いま以上の力を発揮できるような場をつくる。

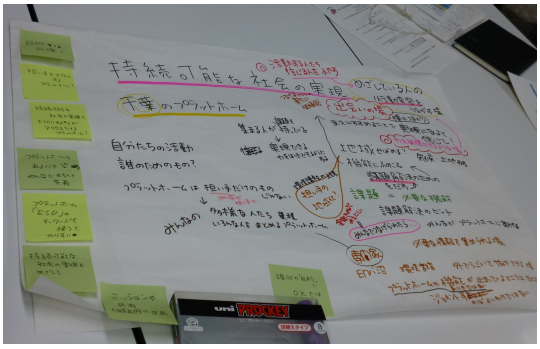
【機能】：学びの機会と場のコーディネート。出会いの機会。人材の育成。

【条件】：ヒト・モノ・カネ・場所（フィールド）・情報の５側面で整理
※フィールドとネットワークが特に重要

【運営】：メンバーが営業所的な役割を果たす。信頼、実績の蓄積と見える化がだいじ。

などが挙げられました。

主催者側としては、「機能するプラットホーム」に向けて、多くの方の知恵とお力をお願いしたいと思います。プラットホームづくりのメンバーが、それぞれのキーワードに関わり、具体的に内容を詰めていただけるように進めていく所存です。そして 2020 年度事業として、具体的な活動をお示し出来るようにしたいと思っています。



ちばSDGsフォーラム開催のご報告

■日時　２０１９年10月20日（日）13：30～15：30
■会場　幕張メッセ国際会議場　202室　　主催：（特非）環境パートナーシップちば
■内容

幕張メッセで行われたエコメッセ2019 in ちばの会場内にて、「ちばSDGsフォーラム　～私が取り組むSDGs～」を開催し、参加者は講師含み56名でした。

講演は、当団体のメンバーでもある神田外語大学言語メディア教育センター長准教授の石井 雅章氏に、「SDGs を自分ごと化するための工夫」についてお願いしました。

その後、石井氏をコーディネーターとして、事例紹介とパネルディスカッションを行いました。◆木村 由佳氏（元青年海外協力隊）には『途上国での環境教育』として、ラオスにおける環境教育や生ゴミコンポスト活動についての事例を、◆遠藤 美映氏（合同会社 HANA 代表社員兼 BSC 実行委員会理事）には『ベイタウン・SDGs・クリエーションの活動』として「幕張ベイタウン DOG FES 2019」に参加したご経験を、◆手塚 幸夫氏（房総野生生物研究所）には『いすみ市での生物多様性の主流化と SDGs』として、いすみ市が進める有機稲作と学校給食の全量有機米化の取り組みや、食農教育と環境学習を一体的に捉えるプログラムの開発などを、それぞれの立場での SDGs の視点を取り入れた事例として紹介していただきました。

終了後のアンケートでは、「フォーラムを受講して自身に変化した点があったか」の問いに多くの方が「あった」と回答されていました。「SDGs について知るとともに、それぞれの立場から SDGs に取り組むヒントを得てもらえたと思われました。

関東地方ESD活動支援センター 第２回地域ESD拠点意見交換会

■日時　２020年１月26日（日）10：00～12：00
■会場　東京ウィメンズプラザ
■内容

ESD活動支援センターでは、各地域でESDの取り組みを支援することで ESD 推進ネットワークを牽引する「地域ESD活動推進拠点」の登録を呼びかけています。

当会は2019年に登録をしました。現時点の登録数は、全国で109団体、そのうち関東は25団体です。関東地区は、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県がエリアとなります。意見交換会の参加者は、13団体他、環境省関東地方環境事務所、関東地方ESD活動支援センターなど、40名ほどでした。

初めに、SDGs と ESD についての最近の状況の説明、参加した地域ESD拠点の紹介後、ワークショップが約１時間ありました。

最近の状況では、「ESD for 2030」が2019年 12 月 19 日国連総会で採択されたそうです。「ESD for 2030」は、優先行動分野（①政策的支援 ②機関包括型アプローチ ③教育者④ユース⑤地域コミュニティの下、様々なステークホルダーで構成される１つの包括的ネットワークの構築や、優先行動５分野のパートナーネットワークを超えた横断的活動・協力の強化を推奨する。

ワークショップでは、地域ESD活動推進拠点の展開の可能性について意見を出し合いました。SDGs や ESD の担い手不足、多職種、異分野との交流、学校との連携などの課題に対して、お互いを理解し協働を進める、大人がこどもを育てる→学校・ユースを巻き込んでこどもが主体になるように、知る・学ぶから実践の場が重要、等がありました。

発行：特定非営利活動法人　環境パートナーシップちば　https://kanpachiba.com/
お問い合わせ：　e-mail：info@kanpachiba.com　Tel：090-8116-4633
この事業は、地球環境基金の助成を受け実施しています